第16号
発行＝小国町役場
編集＝総務課
印刷＝小千谷市位下印刷

広報おぐに

昭和45年8月15日発行

小国町の人口
男　5,532人
女　5,812人
計　11,344人
世帯数　2,543
昭和45年7月31日現在

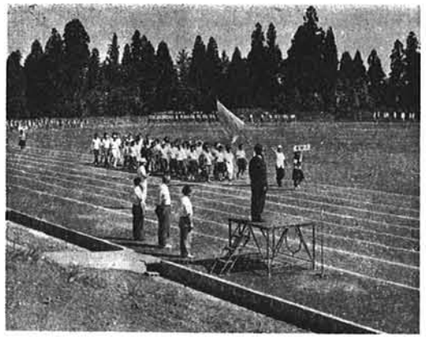
町民体育大会

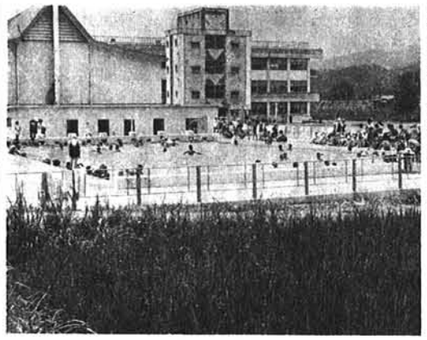
（八月一日）

第七回町民体育大会（陸上競技）は、連日の日照りに待ちあぐんだ夕立ちが幸して、グランドコンディションも上々となり、一大体育祭典にふさわしい好天に恵まれ、小学生より壮年まで五十種目に渉る競技をくり広げ熱戦のうちに滞りなく全種目を消化し、保育園児や婦人会の踊りが花を添えて汗　声援のうちに幕を閉じました。

上地区　三四六点
中地区　三四三点
下地区　三六九点
結果一位の下地区が町長杯を獲得した。

今年は、参加選手を多く求める目的より一人一種目制を試み、又小校区の選手選考の困難性を考え三地区に分け得点を競い、概して良好な成果を認められましたが、広範囲に渉り準備と大会推進に御協力戴きました各位に感謝申し上げますと共に今後検討の余地も残されております。又全町一ケ所会場では幾多の支障もありますが、郡内に誇る唯一の総合グランドを持つ小国町住民は、本大会を機に体育推進に認識を深め青少年の健全育成をも心してこの大会を有意義となるよう考究しつゝ盛り上げてゆきましょう。





下小国小学校のプール完成

七月三十一日プール開き、図のように児童が嬉々として泳いでいます。
又、併せて建設の上小国小学校プールも完成、八月八日プール開きを行いました。

面積四三、六ヘクタール
補助金千四百万円
―米生産調整事業まとまる―

今春以来、本年度農政の焦点としてとりあげられてきた米生産調整事業もいよいよ奨励補助金の交付申請の段階に入り、七月二十七日から三十一日までの五日間、五班編成で米生産調整実施水田の現地確認調査を実施し、このほどその最終的な実績がまとまった。

生産調整実施水田は当初計画された四十五・三ヘクタールを一・七ヘクタール下廻わり四十三・六ヘクタールとなり、数量では計画の一八一トンが一七三トンと八トンの減となりました。

実績に基づく補助金額は一千四百万円余となるが補助金交付申請は農協が一括委任をうけて行ない、九月末頃までには各農協の口座振込みで交付される予定になっている。

尚、昨年別対策事業についても休耕地に対する除草剤の現・支給を近く行なうこととなり、各部落総代を通じて支給される。

その他、養魚池転換、牧草畑等畑作転換に対する特別補助金や肥料、種子等の現物支給も本年中には完了の予定になっている。

機械田植の稲順調に育つ

米作以降「育苗センター」による機械田植用稚苗の大量生産の方向を一はっきりさせたなかで農協や農業団体と協力して近代化の一環として積極的に普及したい考えである。

指導にあたっている普及所はこのまま収穫までこぎつければ期待以上の結果が得られるものと判断している。

今年の結果によっては来年以降、急速な普及も考えられ、町としても町農業発展の方向を、はっきりさせたなかで農協や農業団体と協力して近代化の一環として積極的に普及したい考えである。

戦没者叙位叙勲発令

近代農兵研では近く全出品者を普及所に集めて研究討論会を開くことにしている。

り七五〇キログラム（十二俵半）を最高に大半が十一俵前後をめざして収穫後を前に研究を進めている。

陸軍の部

（六三回）
熱七等　軍曹　石井義栄
上谷内兄　池島政栄
熱八等　上等兵飯田正利
八王子　母　トイ

（六六回）
熱八等　兵長　板本房之助
七日町　妻　キクノ

（七〇回）
熱七等　軍曹　木俣源蔵
山野田明治　牧野　忠

（七一回）
熱七等　伍長　中村興吉
八王子　妻　トミ
熱七等　伍長　北原栄七
原　父　定二
熱七等　軍曹　山岸常吉
千谷沢　母　トユ
熱七等　軍曹　小島吉郎
森光　母　ハル
熱七等　軍曹　布施四郎
三桶　兄　清
熱七等　曹長　佐藤停治
諏訪井　兄　佐武郎
熱七等　曹長　原　頴一郎
武石　母　ナカ
熱八等　伍長　山岸省二
相野原　父　義一郎
熱八等　伍長　和田繁一
七日町　妻　キサ
熱八等　伍長　原　興一
七日町　妹　ツネ
熱八等　伍長　北原新一
太郎丸　母　マト
熱八等　伍長　牧野嘉吉
山野田　兄　勘一郎
熱八等　伍長　近藤誠造
小栗山　母　イク
熱八等　伍長　小林　睦
太郎丸　妻　キイ
熱八等　一等兵北原政勝
原　姉　宮川ハルノ

海軍の部

（七〇回）
熱八等　軍属　今井康雄
小栗山　父　平治
熱八等　軍属　田中金治
二本柳　兄　梅太郎
熱八等　軍属　柏橋銀一郎
森光　長女　小島静
熱八等　軍属　北原安太郎
小国沢　長男　富一
熱八等　軍属　山岸　栄
三桶　母　キク
熱八等　二曹　山崎みよし
相野原　父　正
熱八等　二飛　青柳久雄
桐沢　兄　良孝
熱八等　上機兵栗林生三
法坂　妹　ミスエ
熱八等　水兵　飯田栄治
八王子　妻　キミ
熱八等　上水　佐藤俊一
武石　母　キイ
熱八等　上水　青柳誠太郎
桐沢　妹　八重子

（七一回）
熱六等　一整曹山岸篤史
三桶　弟　修二
熱八等　兵長　山岸信芳
三桶　義姉　キノ
熱八等　兵長　片桐慶二
小栗山　兄　勝男
熱八等　兵長　関口武男
檜沢　母　トシ
熱八等　兵長　江口繁敏
三桶　母　ソテ
熱八等　伍長　笠井久一
千谷沢　母　ツマ
熱八等　伍長　田中　勇
森光　兄　文吾
熱八等　伍長　笹崎市郎
諏訪井　弟　忠治
熱八等　伍長　福島治平
諏訪井　兄　伝作
熱八等　民間戦斗参加
中村セツ
熱八等　義兄　弥三郎
熱八等　民間戦斗参加
松田トク
法坂　甥　竹部平三郎
熱八等　一等兵宮川達治
千谷沢　兄　栄一郎
熱八等　一等兵内山用吉
苔野島　義姉　初以
熱八等　上等兵西野庄松
原　妻　ヤマ

―飲酒運転を「わが家」から「この町」からしめだそう！―

飲酒運転による死亡事故は、昭和四十四年中に千三百三十六件にのぼり、これは全死亡事故一万五千三百九十六件のうちの八・七%に相当しており、わき見運転について高い率になっています。

これまでも、春秋の全国交通安全運動その他機会あるごとに飲酒運転の追放が叫ばれてきましたが、まだまだ跡を絶たない状態です。ちょっと一杯という軽い気持で飲んだ酒が死亡事故のもとになっているという事実を知ることが大切ですが、ドライバー自身のほかに、職場や家庭でも運転者に酒をすすめないよう、みんなで注意しましょう。

八月二十日から道路交通法の改正によって、飲酒運転に関する規制が強化されました。（七月五日発行号外に詳報）

次のことに注意

一、**職場においては**
所属の職員、とくに運転免許取得者には次の事項を周知徹底する。
㈠酒気帯び運転の禁止に違反して運転するおそれのある者に飲酒をすすめない。
二、**自動車の使用者は**
自動車の使用者および運転者は、前記一の事項について、その遵守を徹底させること。
三、**料飲店、旅館等**
特に、酒類を提供する料飲店、旅館等は酒気帯び運転のおそれのある者に酒類を提供し、また飲酒をすすめないこと。

厚生省主管婦人少年室協
助員に小国町住民課長が
委嘱されました

昭和二十八年協助員制度が設けられましたが、当小国町では長らく、現婦人会長青柳チエさんから御引受けいただいておりましたが本年三月三十一日任期満了となり後任に町の住民課長が担当することになりました。町村固有の行政とも深いつながりがありますので一層御利用いただきたいと存じます。次に協助員の業務について簡単に御知らせ致します。元来此の制度の発足は赤線廃止に伴う婦人の厚生指導にあったもので すが、時代の急速の変動に伴い婦人労働、青少年非行化防止、家庭労働、出稼宿守家族指導等各種の指導活動を展開いたして参りました。特に最近経済の高度成長と、国民福祉の「アンバランス」が目立って参りました。

これらの問題を解決するためあらゆる機関が協調して問題の解決を計って行くことこそ当面の重要課題であります。これらの問題が指摘方々身辺に数限りなく散在いたしておることと思います。そんなことを是非御相談下さい。相談の内容は極秘です。解決は前に述べましたとおり国の機関で行います。相談の内容を聞き其の筋に通報するのが役目で御座います。先達て頸城村で内職斡旋と称し基金を集め、参数のお金を巻き上げられた恐るべき詐欺にかかった家庭の主婦がおります。こんな問題をお聞きするのも協助員の仕事です。

小国町には住民相談室あり。行政苦情相談員、老人福祉相談員と各種の相談制度を設け皆様方の生活の保護育成指導に当っております。是非御利用いただき悩みなき明るい家庭を築きあげる繰望へで止みません。

住民課

災害を受けたときは
税金の減免手続を

台風や集中豪雨などの災害で財産に損害を受けたときは、税金の面でも、徴収の猶予や申告期限の延長など、次のようないろいろな救済方法があります。もし不幸にして災害を受けられた場合は、この措置を十分ご活用されますようお知らせします。詳しいことは柏崎税務所または役場へお問い合わせください。

一、災害のやんだ日から二ケ月以内に納税の猶予の申請書を提出し税額全部又は一部の納税の猶予ができます。

二、予定納税額のある方は中告納税見積額を計算し、予定納税額の減額申請をすることができます。

三、事　用の固定資産の損失は必要経費に算入され、確定申告で三年間の繰越控除ができます。

四、生活用資産の損失は雑損控除として合計所得金額の1/10超過額が控除され、確定申告で三年間の繰越控除ができます。また、災害減免法の適用も選択することもできます。

新潟県の人口は？

昭和四十五年十月一日午前零時現在で行なわれる国勢調査による新潟県の人口はいくらになるでしょうか。

一、**応募方法**
官制はがきを使用し一枚に一点の予想人口および住所氏名を明記　こと。

二、**締　切**
昭和四十五年十月一日
（当日消印有効）

三、**送り先**
新潟西局区内
新潟県企画開発部統計課
内国勢調査新潟県実施本部あて

四、**賞　金**
本年十二月末までに総理府統計局から公表される速報人口に基づき、これに的中したもの。および近似の数により次のとおり入賞者を決定する。
一等　一名　五千円
二等　一名　三千円
三等　一名　二千円
入賞　十名　各五百円

五、**発　表**
本年十二月末までに新潟日報（にいがた県の窓）に発表及び入賞者に通知する。

六、**参　考**
昭和四十年国調人口
二、三九八、九三一人
（推計）
昭和四十一年
二、三五三、九二五人
（推計）
昭和四十二年
二、三一八、四八二人
（推計）
昭和四十三年
二、三七五、二〇〇人
（推計）
昭和四十四年
二、三五七、七四七人

㈡この推計人口は昭和四十年国調人口に届出による出生、死亡、転入、転出者数を差引いて算出した各年十月一日の推計人口である。

国勢調査パパママボクの名がならぶ

刈羽郡婦人連盟総会

都内町村持ち廻りの十九回総会は、七月十八日小国中学校を会場に郡内婦人一、二五〇名の参加者を得て開催され、農民文学者河内幸一郎先生の講演、婦人会の意義についてのパネル討議諸報告議決、更に華やかな各町村有志のレクリーエションもたっぷり満喫盛大裡に終了した。